

中央中学校
平成30年度
学校通信

ひら

いま拓く

桐生市立中央中学校
平成30年 10月29日
NO. 21 文責：寺島

合唱の完成形、心に刻みました。

10月26日(金)、1カ月にも及ぶ練習を積み重ねて磨き上げた歌声を競い合う合唱コンクールが、桐生市市民文化会館シルクホールで行われました。各学年、学級とも聴く人の胸を打つ質の高い合唱を披露してくれました。そのひたむきな姿勢、そして、積み重ねた努力の大きさ、重さに改めて敬意を表するとともに、感謝を申し上げます。また、各クラスの発表終了後のほっとした気分の中で聴いた桐生市中学校特別支援学級のみなさんによる演奏や合唱、PTAの皆様による合唱は、音楽の奥深さや楽しさを感じさせてくれるものでした。お忙しい中、応援に駆けつけてくださったたくさんの保護者の皆様にも改めてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。生徒のみなさん、素晴らしい合唱コンクールにしてくれてありがとう。みなさんの合唱の完成形、しっかりと心に刻みました。

【結 果】

※敬称略(数字):組

学年	金賞	最優秀指揮者賞	最優秀伴奏者賞
1年	1組	伏島 聖貴(3)	上石 椰月(1)
2年	3組	高峯 大悟(3)	小川 彩(1)
3年	1組	茅野 晴夏(1)	能澤 董(1)



▲校歌斉唱



▲1年1組自由曲
『COSMOS』



▲2年3組自由曲
『時の旅人』



▲3年1組自由曲
『いつまでも』



▲市内特別支援学級合同学習
演奏、合唱



▲PTA合唱
『世界に一つだけの花』

【合唱コンクール講評（という名の感想）】

みなさんお疲れ様でした。私に与えられた役割は「講評」ですが、その意味を辞書で引いたところ「指導的立場で理由を挙げて説明しながら批評する」とありました。素人には無理です。とても手に負えないので、これから申し上げることは単なる感想にとどまります。そう思って聞いてください。

まず全体について申し上げます。本気の合唱に順位を付けるのは難しいと思いました。各学年ともほとんど差がありません。許されるものなら、すべてのクラスに金賞をあげたいというのが本音です。ですから、この後成績が発表されるわけですが、金賞を逃したクラスも決して悲しまないでください。クラス全員で最高の合唱を作った事実は揺るがないのですから。みなさんの頑張りに心からお礼を申し上げます。素晴らしい合唱を聴かせてくれてありがとうございます。運動会のときと同様、今、中央中の職員でいられる幸せをかみしめているところです。ついでに言うと、本番中にも合唱が育つということを初めて知りました。緊張のためかピアノやあるパートが普段どおりの力を発揮できていないスタートを切ったクラスが、途中からそれをカバーする他の人の声出しによって落ち着きを取り戻し、本来の力を取り戻して素晴らしい合唱に仕上げているということがあったのです。

さて、その上で各学年の課題曲について一言ずつ申し上げます。まず1年生の『マイ・バラード』について。中学生として初めて臨む合唱コンクールであること、声変わりの途中であること、ひとクラスあたりの人数が2、3年生に比べて少ないことなど不利な要素がたくさんある中で、各クラスとも歌詞の中にあるように、心を一つにして歌うことができました。とは言え、1カ月にも及ぶ練習ですから、時にはうまくいかなかったり、ぶつかり合ったりという場面もあったのではないのでしょうか。そのたびに心を合わせ、励まし合ってきたからこそ今日の合唱があったのだと思います。大切なのは壁を乗り越えるという成功体験を味わうことではないのでしょうか。中学生として、みなさんよく頑張りました。合格です。お疲れ様でした。

次に2年生の『心の中にきらめいて』について。不勉強のため、今回の合唱コンクールまでこの曲を知りませんでした。いい曲ですね。この曲は、大人になってから学生時代を振り返るといふ体裁をとっていますが、単なる「昔はよかった」というノスタルジーにひたる歌にはなっていません。なぜでしょうか？この曲が、「人との交流を大切にすること」、そして、「今を大切に生きること」をテーマとしているからだだと思います。各クラスともそのテーマのように時間をかけてこの曲を磨き上げてくれました。タイトルそのままにみなさんの歌声が私の心の中にきらめきました。お疲れ様でした。

そして、3年生の『大地讃頌』について。本日お越しの保護者の皆様の中にも、中学3年生のときに、合唱コンクールで『大地讃頌』を歌ったという方がたくさんいらっしゃるのではないかと思います。この歌が最上級生である3年生の課題曲になることが多いのはなぜでしょうか？冒頭申し上げたように音楽の素人に技能面での制約など専門的なことは分かりませんが、純粹に印象だけで申し上げますと、この曲が歌い手に求める力強さ、自信、分厚さ、すべてを包み込む優しさなどが、義務教育9年間の風雪に耐え、いくつもの壁を乗り越えてきた中学3年生にふさわしいからではないのでしょうか。逆に言えば、この『大地讃頌』は、3年生だからこそ歌いこなせる難しい歌であるということもできるでしょう。4月以来、部活動で、学校行事で、専門委員会で主役として積み重ねてきた努力が見事な歌声として実を結び、聴く者の心を捉えて放さない見事な合唱を作り出してくれました。素晴らしい合唱でした。本当にお疲れ様でした。

また、『糸』という名曲を聴かせてくれた市内特別支援学級の生徒のみなさんと先生方、ありがとうございます。「遭うべき糸に出逢えることを ひととは合わせと呼びます」のフレーズに心をわしづかみにされました。中央中の合唱コンクールでみなさんと出会うことができ私は幸せです。

結びに、コンクールの運営を支えてくださった市民文化会館の皆様、お仕事の合間を縫って応援に駆けつけてくださった保護者の皆様、PTA合唱を聴かせてくださった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。